

2019 年度夏期コース報告

大 橋 真貴子

1 はじめに

アメリカ・カナダ大学連合日本研究センターでは、40 週間の年間コースとは独立して 7 週間の夏期コースが設置されている。本年度は 2019 年 6 月 20 日（木）より 8 月 7 日（水）まで実施した。受講者は 45 名で、大学院生または大学院入学予定 36 名、社会人 3 名、学部生が 6 名である。以下に 2019 年度の夏期コース実施内容を報告する。

2 夏期コースの目的と特徴

夏期コースでは、主任と副主任が応募書類と日本語能力評価を基に選考を行う¹。入学の条件は大学レベルの機関で既に 2 年から 3 年程度の学習を済ませ、かつコース参加に対する明確な目的を持っていることである²。

応募者のほとんどは大学院生や社会人（または社会人経験者）であり、研究や実務に役立つ専門性の高い日本語力を高めたい、ということを目的としていることが多い。彼らが挙げる必要な日本語スキルも具体性があり、例えば、夏期コース修了後日本で資料収集などを行うための待遇表現を学びたい、ある専門書を正確に理解するための読解力をつけたい、などである。こうしたことから、夏期コースも年間コースと同じく、日本研究の専門家や日本関係の実務家などを目指す人々を対象として、日本社会に違和感なく受け入れられる高度な日本語教育を行うことを目的としており、夏期コースは年間コースの縮小版とも言うべき内容になっている³。

夏期コースが年間コースと異なる点は教員構成であり、年間コースを担当する常勤・非常勤講師に加え、海外で教鞭をとる講師から成る。本年度は、常勤・非常勤講師 9 名、米国から 3 名の講師が参加した⁴。夏期コースは、異なる背景を持つ日本語教員が経験や意識、方法論を共有する場でもあると言えよう。

3 教育活動の概要

夏期コース受講者は初日の試験により習熟度や得手不得手の傾向が判定され、それに従って 6 つのクラスに分けられる。今年度は各クラス学生 6～8 名で、1 名の担任と 1 名の副担任が運営した。コース全体の教育内容を以下に記す。

3-1 授業・校外学習

毎日の時間割は、50分授業が4コマという構成である。うち3コマを午前9時40分から午後0時30分までの間に行い、1時間の昼休みを挟んで午後1時30分から4コマ目を行う。上級レベルの四技能習得や、公の場で社会人として通用する言葉遣いを身につけるという大きな目標は全クラス共通であるが、4コマの授業時間（校外学習を除く）の中でどの技能にどの程度の時間をかけるか、教材として何を用いるかは、主任と協議の上で各クラス担任が決定している。担任は教育内容をコース開始前に計画するが、自クラスの学生のレベルや学習ストラテジー、あるいは関心の対象が事前の想定と合わないことも多く、そうした場合には予定していた教材をコース期間中に変更するなどの調整を行う。

また、日本文化と社会を体験できる機会として校外学習が5回設けられており、これは主に金曜日の午後が充てられ、授業時間と見なされている。コースの最後には、学んだ日本語を生かし、学生が自分の専門分野等について発表と質疑応答を行う口頭発表会が開かれる。夏期コースは成績や単位を発行していないが、クラスごとに行う中間試験と最終試験、及び口頭発表会によって学生の達成度を判定しており、この結果は学生自身の後学のために活かされている。

その他の授業時間に行われる活動として個人授業がある。これは学生1人あたり全コースを通じて1時間、通常授業の時間枠の中で教員が個人的に指導をする時間をいう。この時間をどのように利用するかは、担任がそれぞれのカリキュラムや学生の要望に応じて決定している。あるクラスでは、1時間を2回に分け、個別に中間試験のフィードバックや期末発表のため準備を行っている。別のクラスでは、論文や新聞記事を読む、発音練習をする、など各学生のやりたいことを担任が指導する時間としている。どのような内容であっても授業時間内であるため、個人授業以外の学生は自習をしたり、決められたテーマで議論したりしながら自分の番を待つこととなる。

授業以外の日本語力向上の機会としては、教材助手、大学生・大学院生インターン、社会人ボランティアの協力を得て、自由会話の時間が設けられている⁵。例年、授業以外でも日本語を話す時間を持つことが望ましいと教員が判断した、会話力の弱い学生は会話に参加することを必須とされている。そうした学生以外にも、会話力を高めたいという学生が自主的に参加している。

夏期コースの日程や校外学習の行き先については、末尾の資料を参照されたい。

3-2 各クラスの概略

授業では、全てのクラスにおいて、学生によるスピーチとそれに関するクラス全員での討論、NHK ニュースなどのビデオ素材あるいは市販の日本語教材を用いた聴き取りと内容報告の練習、教科書や新聞、雑誌、書籍を用いた読解練習とそれを通じた語彙・表現力の増強、そして、『待遇表現』を用いた待遇表現の習得練習が行われる。また、作文の宿題

も定期的に課される。

本節では各クラスの概略を述べる。

「夏海」

①コース目標

1. 小説、論文、記事などの読解（および聞き取り）を通して、表現文型を増やし、漢字力、語彙力を増強する。理解力を高めると同時に日本語、日本文化の本質にできる限り迫る。
2. 相手に聞きやすい発音、表現で、スピーチができるようになる。
3. 知的で適切な表現を使って、話し合いができるようになる。
4. 相手や場面に応じて、適切な敬語表現が使えるようになる。
5. ニュースや新聞を通して社会問題を知るとともに批判的に検討する。
6. <その他> 個人的な目標を設定し、それぞれに努力する。

②時間割

9:40～10:40：1分スピーチ・ニュース・漢字クイズ・文法・発音

10:50～11:40：読解・聴解・文法

11:50～12:30：待遇表現

13:30～14:20：話し合い

③教材（一部）

- ・ 上野千鶴子「がんばっても報われない社会が待っている」2019年4月12日東京大学入学式祝辞
- ・ リービ英雄「loveとは違った、恋の表現力」『英語で読む万葉集』岩波書店、2004年
- ・ 安西均「お辞儀する人」
- ・ 小津安二郎『晩秋』
- ・ 友松悦子他『どんなときどう使う日本語表現文型 500』アルク、2010年
- ・ 中川千恵子他『日本語話し方トレーニング』アスク、2015年

「夏草」

①コース目標

1. 基本的な文法を復習し、正しく使えるようにする。
2. 中・上級の文型を身につけ、語彙力と表現力を増強する。
3. 論理的な文章の典型的な構造・表現を知って早く読めるようにする。そして自分でもそのような文章を書けるようにする。

- 意見陳述、反論、依頼など、相手との社会的関係に応じて繊細な配慮が求められる言語行動を失礼なく遂行できるようになる。

②時間割

9:40～10:30 : 2分間スピーチ・ニュース・単語クイズ

10:40～11:30 : テーマ別学習*

11:40～12:30 : 待遇表現

13:30～14:20 : 話し合い

*テーマ別学習：「今の日本」というテーマで『日本がわかる、日本語がわかる』などから各学生に1つずつ記事を選ばせ、宿題として他の学生にも読ませる。授業では選んだ人が中心となって話し合いを行う。

③教材（一部）

- 田中祐輔他『上級日本語教材 日本がわかる、日本語がわかる ベストセラー書評のエッセイ 24』凡人社、2019年
- 井戸まさえ『日本の無戸籍者』岩波書店、2017年
- 村上春樹「納屋を焼く」『蛍・納屋を焼く・その他の短編集』新潮社、1987年
- 佐藤道信「序章 - 美術の言語と言説」『＜日本美術＞誕生』講談社、1996年

「夏柳」

①コース目標

- 自分の専門的なことがらを専門外の人にわかりやすく説明ができる。
- 日本の事情や社会、文化によりよく触れる。一般的な知識を広める。
- 日本語で様々な情報源を使い、得た情報を総合的・批判的に精査分析する。
- 社会人として場面に応じた適切な言語行動をとるための準備をする。

②時間割

9:40～10:30 : 5分間スピーチ・単語クイズ・文型練習

10:40～11:30 : 文型学習・待遇表現

11:40～12:30 : 読解

13:30～14:20 : 最新のニュースの内容理解、話し合い

③教材（一部）

- 原田曜平「ちぢこまるケイタイネーティブ」『近頃の若者はなぜダメなのか』光文社、

2010年

- ・ 佐藤智恵「日本人はなぜ長寿なのか」『ハーバードの日本人論』中央公論新社、2019年
- ・ 桑原真人・川上淳「『土人』から『旧土人』へ開拓使が行ったアイヌ政策」『北海道の歴史が分かる本』亜璃西社、2018年
- ・ 南原一博『日本精神史序説』お茶ノ水書房、1990年
- ・ 田中伸尚・田中宏・波田永実『遺族と戦後』岩波書店、1995年
- ・ アカデミックジャパニーズ研究会編著『大学・大学院留学生の日本語③論文読解編』アルク、2015年

「夏山」

①コース目標

1. 語彙を増やし、使えるようにする。
2. 専門分野の論文を読むために必要な文法、表現、知識を身につける。
3. 自分で決めたテーマについての発表を通して、自分の考えを伝えることができるようになる。
4. 自分で決めたテーマについてまとまった話をし、話し合いをすることに慣れる。
5. 様々な状況での日本語表現方法・待遇表現を知り、使えるようになる。
6. 今まで勉強してきた文法についての理解を深める

②時間割

9:40～10:30：写真会話*・ニュース報告・単語クイズ・文法クイズ・待遇表現

10:40～11:30：読解・文法**

11:40～12:30：読解・文法

13:30～14:20：発表と話し合い

*写真会話：担当学生が写真を1枚用意し、3分程でそれを解説する

**文法は水曜日のみ

③教材（一部）

- ・ 加藤文俊「冷たいおべんとう」『おべんとうと日本人』草思社、2015年
- ・ アカデミックジャパニーズ研究会編著『大学・大学院留学生の日本語③論文読解編』アルク、2002年
- ・ 近藤安月子他『文化へのまなざし』東京大学出版会、2011年

「夏鳥」

① コース目標

1. 漢字や語彙を増やし、正しく使えるようになる。
2. 新しい表現を学び、これまでに習った文法や文型を自然に使えるようにする。
3. 場面や相手に応じて、適切な表現が使えるようになる。
4. 話し言葉と書き言葉の使い分けができるようになる。
5. 色々な文型を使って、レベルで話をしたり文を書いたりできるようになる。
6. 自分の意見や考えなどが分かりやすく相手に伝えられるようになる。
7. 自然な速さの日本語を聞き取る力をつける。
8. 短い新聞記事や小説などの内容をしながら読めるようになる。

② 時間割

9:40～10:20 : ニュース報告・読解

10:30～11:10 : 読解

11:20～12:30 : 待遇表現・文法

13:30～14:20 : ディスカッション・個人面談など

③ 教材 (一部)

- ・ 清水正幸・奥山貴之『日本語学習者のための読解厳選テーマ10 中上級』凡人社、2015年
- ・ 友松悦子・和栗雅子『初級日本語文法総まとめポイント20』スリーエーネットワーク、2004年

「夏空」

① コース目標

文法を復習して知識を整理し、正しく使いこなせるようになる。

読み物に書いてあることや筆者の意図を正しく理解できるようになる。

勉強した言葉や表現を使って、話すことと書くことに慣れる。

② 時間割

9:40～10:30 : 文法

10:30～11:10 : 単語クイズ・読解

11:20～12:30 : 待遇表現

13:30～14:20 : 会話練習

③教材

- ・ 友松悦子・和栗雅子『初級日本語文法総まとめポイント 20』スリーエーネットワーク、2004年
- ・ アカデミックジャパニーズ研究会編著『大学・大学院留学生の日本語③論文読解編』アルク、2002年

4 受講者によるコース評価

今年度受講者のアンケートは受講者45名のうち37名から回答を得た。選択（必須）27問、記述（任意）28問のうち、コース運営に関わる回答結果を以下で紹介する。

4-1 コース・授業・校外学習に対する評価

- ・ 夏期コース全体に対する評価
Excellent : 20名、Good : 14名、Fair : 3名、Poor : 0名
- ・ 夏期コースを推薦するか
Yes : 36名、No : 1名
- ・ 授業に対する全体的な評価
Excellent : 23名、Good : 11名、Fair : 3名
- ・ 校外学習（建長寺における坐禅研修）に対する評価
Excellent : 28名、Good : 6名、Fair : 2名、Poor : 1名

概ね学生のコメントはコースや授業に対して好意的であり、多くの学生が講師に対して謝意を表しているが、ここではネガティブな評価を中心に検証してみたい。

当然のことながら授業に対する不満がコース全体の評価に反映していると言える。例えば、コースに対して低い評価をしている学生は「アカデミックな学生には適しているが、授業はビジネスが専門の社会人には向かない」と書いている。また、レベルに関わらず、課題の量が多すぎる・難しすぎると感じると、授業・コースへの不満が高まる傾向がみられた。コメントの中には、自分が必要としている日本語能力の向上のために、例えば会話、文法、漢字などをもっと授業でやってほしかったというものもあり、期待と授業内容のギャップが評価を下げる一因となっていることが考えられる。

校外学習に関しては、ここでは紙幅の関係上坐禅研修の評価のみを載せたが、他の行事も概ね評価が高かった。ただ、1名の学生が図書館や資料館へ行くために校外学習はオプションにしてほしかったと書いている。

以上のような実際の教育内容と学生の期待とのギャップを埋めるために、校外学習が授業の一環であることや授業内容をホームページなどで周知させ、納得してもらった上で応

募・入学してもらう必要がある。また、応募時か入学前に学生に対して詳細なニーズ調査などをしておくことが対策の一つとして考えられる。

4-2 発表に対する評価

- ・ 発表会についてどう思うか

Excellent : 15 名、Good : 16 名、Fair : 6 名、Poor : 0 名

学生の評価は、自分の発表について教師からフィードバックがあったと感じられたかどうか、他者の発表を聴くことに興味や意義が持てたかどうか、によって分かれたようである。また、発表会で学生は日本語力に関係なく発表内容で4グループ(1グループ約12名)に分けられるため、日本語力が低い学生にとって発表後の質疑応答は苦痛だったようであり、彼らの発表会に対する評価も高いとは言えない。その他に、発音やイントネーションに対する指導の徹底や、原稿を暗記させてはどうかという意見もあった。

4-3 コース開始前の宿題

- ・ コース開始前の宿題についてどう思うか

Excellent : 6 名、Good : 19 名、Fair : 8 名、Poor : 4 名

今年度より、コース開始前に参加者に読解と漢字の宿題を課した。読解問題は700字程度の読み物を用い、漢字の読み方・文型・接続詞の知識や、筆者の主張を正確に理解しているか、それに対する自分の意見が正確に書けるかどうかを問うものであった。Google Formを用い、45名中44名が解答を返信した。解答はコース開始後主任と副主任が採点して返却し、採点に疑問や質問がある場合は主任と副主任に問い合わせるよう伝えた。

漢字の宿題とは、コース開始前に理解しておいたほうが良いと考えられる100語を『Kanji in Context Workbook vol.1』を用いて作成した選択問題である。100点をとるまで繰り返し受けるよう指示を出し、35名の学生がのべ87回受け、17名が100点をとった。

今年度からコース開始前に宿題を課したのは、コースの授業内容の理解促進と語彙力・漢字力の底上げのためである。また、読解力、語彙・文型の運用力、自分の意見を論理的に説明することが求められる、センター特有の授業内容を事前の宿題を通して理解させるという意図もあった。しかしながら、説明やフィードバックが不十分であったことから、出題の意図が的確に伝わらなかった可能性もある。今年度はコメントを収集しなかったため学生の評価の理由は明確ではないが、事前の宿題は今後も改善しながら実施していきたい。

4-4 英語禁止規則の順守について

- ・ 英語禁止の規則 (IUC があるフロアでは日本語以外の言語を使ってはいけない) を守ったか

Yes : 30 名、No : 7 名

この質問に続き、英語禁止の規則を守らなかった学生に理由を聞くと、「日本語で説明しても他の学生が理解できそうになかったらから」とのことであった。また、無意識に英語が口から出てしまう学生もいたが、講師によると、他の学生は影響を受けなかったため規則を守ろうという雰囲気が最後まで保てたようである。

4-5 メンタル面について

- ・ コース中、ストレスを感じたりうつ状態に陥ったりしたか (コースと直接関係がない場合も含めて)

Yes : 13 名、No : 24 名

この質問に続き、そうした状態を乗り越えるためにどのようにしたかと聞いたところ、「課題に集中すること」「自分なりに気分転換をすること」「クラスメートとサポート体制を作ること」などの答えが挙げられた。サマーコース、レギュラーコースを問わず様々な理由でメンタル面の不調を感じる学生は多かれ少なかれ存在する。彼らが参考にできるように先輩の対処方法などをホームページに載せておくなどの対策が考えられる。

5 担任によるコース改善提案

ここではコース終了後、担任、主任、副主任、副所長が出席して行われた反省会での発言や提案を、今後のコース改善に活かせるよう記録しておく。

5-1 クラス運営

日本語力が低めのクラスの担任から、他のクラスよりも負担が大きいので人数はできるだけ少ないほうがよいという意見が出された。オフィスアワーで質問に答えたり、発表会の原稿を直したりする際にかかる時間は、日本語力が高いクラスと比べてかなり長くなる。それに加えて、今年度、このクラスの人数は当初7名であったが、他のクラスから1名移ってきたために担任の負担はかなり大きくなった。日本語力を考慮して、コース途中でも各クラスの人数を調整したりサポート体制を構築したりするなどの柔軟な対応が必要であろう。

また、学部生とクラス運営に関する意見も出された。少数ながら、通っている大学では

上級レベルのクラスがないために夏期コースに応募してくる学部生もいる。彼らは日本語力そのものを高めたい、N1に合格したい、という目的を持っていることが多い。ただ、自分の日本語の欠点も把握できず、専門も明確ではないので、担任はどのように学習目標を設定させ、モチベーションを持たせていいか悩むことがある。また、学部生が大学院生との話し合いについていけない場合もある。このようなことがクラス運営に影響を与えることは年間コースでもあり、即効性がある解決策はないが、ホームページなどによるコースの目的の周知、学部生合格者に意志確認をすることによって、緩和できると考えられる。

5-2 発表会

担任からは主に当日の遅刻者に関する意見が出された。最初の発表者が話し始めてから教室に入ってきた学生が各グループ4、5名おり、雑然とした中で発表が行われたからである。これを防ぐために発表途中の入室を止めるか、最初の発表者の持ち時間を5分長くし、全員がそろってから開始するなどの提案がなされた。一方で、学生が遅刻した理由として、発表する教室がいつも使っている教室と異なっていたため、場所や入り口が分からなかったことも考えられ、一概に遅刻者を責めることはできないという意見もあった。こうしたことから、来年度は事前に自分が発表する教室や入口などを確認させることとなった。

また、学生の発表を評価する方法に関しても話し合われた。現在の方法では、担任が当日の学生のパフォーマンスしか評価できない。そこで、担任からの改善案として、初稿の完成度、リハーサル状況、最終原稿では教師やクラスメートから与えられたフィードバックを反映しているか、単語リストやパワーポイントの良し悪し、当日までに自分で読む練習をしているかなど、初稿から発表会当日まで段階的に向上が見られたかどうかを評価の対象とする方法が挙げられた。これは来年度の評価方法に反映すべきだと思われる。

5-3 マナー

ある担任がクラス内での飲食、着帽があった場合、どうしたらいいか教えてほしいと助言を求めたことから、コース中のマナーについても意見交換が行われた。別の担任から飲食や着帽などについては、個人の事情があったりもするので一概に禁止とはできないが、日本社会では問題視されることが多いことを、コース最初の全体オリエンテーションで知らせてはどうかという提案があった。また、発表会でポケットに手を入れて話すことも日本では失礼と見られることも言及したほうが良いとの意見が出された。それとともに、修了証書の受領方法についても、せっかくの機会なので日本で公的な場で証書を受け取る方法を学生に教え、実践させてみればどうかという提案もあり、様々な機会を使って日本文化を紹介すべきという認識を教員間で共有した。

5-4 校外学習

校外学習については終了時間を学生に明確に知らせてはどうかとの提案があった。それ以降は学生も英語が話せるようになって、校外学習中に感じたことなどを気楽に話し合うことができ、予定がある学生は辞去することができるからである。また、クラス別の校外学習の紹介や感想も出され、あるクラスは前日の授業で食品に関する読み物を読み、そこに取り上げられていた崎陽軒の工場を見学し、別のクラスでは学生が主体となって日本語を使ったゲームをするなど、クラスの個性が表れる日となったようである。

5-5 体調管理

ここ数年、暑くなるだけではなく疲れがたまるコース後半に学生が病気になることが多い。その対策も話し合わせ、熱中症対策の読み物やニュースを授業の一環として取り入れる、医者のかかり方を紹介した録画を見せる、センターが推薦する病院のリンクにすぐアクセスできるようにしておく、などの提案があった。

今年度、けがや病気で病院に行く学生もいたため、学生が入る保険についても話し合われた。旅行保険などに入っている保険料がおりにるまでに時間がかかるので、ある程度の現金は持っておくことや、自分の保険がどこまでカバーしているのか知っておく必要性を強調したほうがよいなどの意見が出された。日本語学習以外のことではあるが、学生が安心して勉強ができるために必要なことであり、コース評価でも今年度の学生が入った保険を聞いているので、その結果をまとめて来年度以降の学生の参考になるようにしておく必要がある。

6 最後に

今年度のコースが学生から高い評価を得ることができたのは、各講師が、学生の要求に柔軟に対応し、学生の日本語能力向上のために熱心に教育活動を行った結果に他ならない。今後も、日本語能力の向上を願う意欲的な学生のニーズを満たす密度の濃い教育の充実を追求していくこととなろう。同時に、主任や副主任は年間コースの職務を果たしながらサマーコースの準備・運営を行うため、その効率化を今後も図っていかなければならない。職務の簡素化とマニュアル化、主任・副主任とスタンフォードオフィス及び横浜オフィスとの連携体制構築をさらに進める必要がある。

(おおはし まきこ／2018～2019 年度夏期コース主任)

注

1 主任・副主任が選んだ学生以外に、年間コース受講前に夏期コースを推奨された学生

- もいる。今年度は2名であった。
- 2 応募書類には「IUC を選んだ理由」及び「日本語の能力で伸ばしたい点、専門と日本語の関係性」を日本語で書かなければならない。
 - 3 ただし、年間コースで必須科目である SKIP (Special Kanji Intensive Program) は、夏期コースでは行わない。学生には、授業以外にもし時間があれば、本センター発行の『Kanji in Context [改訂新版]』とその Web アプリケーション版である WebKIC を用いて常用漢字の学習をするよう勧めている。
 - 4 今年度は、Yale University、Swarthmore College、University of California, Los Angeles での勤務経験がある講師が参加した。
 - 5 今年度は、横浜国立大学の大学生と大学院生、三菱電機定年退職者が参加した。

参考文献

- The Inter-University Center for Japanese Language Studies (1991) 『待遇表現』ジャパンタイムズ社
- The Inter-University Center for Japanese Language Studies (2013) 『中・上級学習者のための漢字と語彙 [改訂新版]』ジャパンタイムズ社

資料：2019年度夏期コース 校外学習等

6月

- 20 (木) 所長より挨拶、クラス分け試験 (筆記、聴解、会話) (9:40~12:00)
- 21 (金) オリエンテーションと緊急時避難訓練 (9:40~12:30)、歓迎会 (12:40~14:30)
- 24 (月) 授業開始
- 28 (金) 校外学習① 横浜の日 4班に分かれ横浜市内を見学
A. キリンビール工場、B. 海外移住資料館、C. 日本郵船歴史博物館
D. 横浜地方裁判所

7月

- 5 (金) 校外学習② 鎌倉の日 午前は建長寺座禅研修、午後は各クラスで鎌倉散策
- 12 (金) 中間試験 (9:40~12:30)
校外学習③ 歌舞伎鑑賞教室「菅原伝授手習鑑」「棒しばり」
- 19 (金) 校外学習④ 東京の日 3班に分かれ東京を見学
A. 東京国立博物館、B. 迎賓館赤坂離宮、C. 明治神宮
- 26 (金) 校外学習⑤ クラス単位で自由行動

8月

5 (月) 最終試験 (9:40~12:30)

6 (火) 口頭発表会 (9:40~14:20)

7 (水) 担任との個人面談 (9:40~12:30) 、修了式 (12:30~14:30)